

# 令和5年度 県立総和工業高等学校自己評価表

目指す学校像	<p>1 校訓である「智和憤」と「ものづくりは人づくり」を教育活動の基盤とし、心身ともに健康で豊かな人間性を育てるとともに、確かな技術力と企業が求める「社会人基礎力」を身につけた優秀な工業技術者を育成する学校。</p> <p>2 圏央道沿線の工業団地の発展に貢献できる人材を育成する地域に根差した工業高校。</p> <p>3 全教職員が資質向上に努め、魅力ある教育活動を推進し、生徒・保護者・地域社会から確かな信頼を寄せられる学校。</p>		
三つの方針		具体的目標	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	<p>「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校訓である「智和憤」と「ものづくりは人づくり」を教育活動の基盤とし、心身ともに健康で豊かな人間性を育てるとともに、確かな技術力と企業が求める「社会人基礎力」を身につけた優秀な工業技術者を育成する。</li> <li>・地域に根差した工業高校を目指し、圏央道沿線の工業団地の発展に貢献できる人材を育成する。</li> <li>・全教職員が資質向上に努め、魅力ある教育活動を推進し、生徒・保護者・地域社会から確かな信頼を獲得する。</li> </ul>	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	<p>「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な学習ニーズに応じた新たな教育課程の編成による、就職から大学進学までの進路希望の実現</li> <li>・生徒個々の進路希望を確実に実現するために、系統的・組織的なキャリア教育を推進し、企業や大学との連携を図り、望ましい勤労観や職業観を養うとともに、進路意識の高揚を目指し社会の変化やグローバル社会に対応できる力をもつ生徒の育成</li> </ul>	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	<p>「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本を重視して「確かな学力」、「生きて働く知識・技能」を確実に習得し、「工業技術者として必要な思考力・判断力・表現力」を身につける努力をする生徒</li> <li>・工業の基礎的・実践的技術を習得し、各種資格取得やものづくりに真摯に取り組む生徒</li> <li>・基本的生活習慣を確立させ、自己の進路実現を目指し、日々努力する生徒</li> </ul>	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域企業と連携したインターンシップの実施や1、2年次の各学科実習や3年次の課題研究など、工業の専門教育を中心とした教育活動を展開している。コロナ禍で開催できなかった地元イベントなども徐々に再開され、生徒の発表の機会も戻りつつあり、再び生徒の能力の向上に寄与するものと期待している。現状において可能な、地域社会との連携のあり方を模索し、生徒が活躍し、自己有用感を感じる機会を増加させることが課題である。</li> <li>・基礎学力不足や学習への取り組み姿勢に問題</li> </ul>	学習意欲を高める授業・実習の指導改善	<p>①授業規律の確立と基礎的・基本的な内容を重視し、確かな学力の定着を図る。</p> <p>②観点別評価を活かし、授業・実習の指導改善を図り、「主体的・対話的で深い学び」を推進する。</p> <p>③ものづくり教育を推進させ、専門的な知識や技術の習得により、資格取得につなげる。</p> <p>④ICT機器の利活用を促進し、「協同的な学び」を推進する。</p> <p>⑤生徒による授業評価において、授業満足度の平均点を3.0以上とする。</p>	
	道徳教育の推進と基本的生活習慣の確立	<p>⑥規範意識の涵養を図り、基本的生活習慣を身につけさせる。</p> <p>⑦道徳教育やいじめ防止対策を推進し、問題行動等の未然防止を図る。</p> <p>⑧ルールやマナーの向上を図り交通事故防止に努める。</p>	

別紙様式 2 (高)

<p>を抱えている生徒が多い。教科毎の適切かつ継続的な学習支援により、学習意欲の維持に努めている。生徒の興味関心を高めるために、ICTの利活用を促進し、主体的な深い学び、協働的な学びを推進する。授業改善により、生徒の学習意欲の向上と基礎学力の定着を図ることが課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識の低下、基本的生活習慣の身につけていない生徒について、問題行動の未然防止や早期発見に努めると共に、全ての生徒へのはたらきかけを強化し、交通安全と生活上のマナーの向上を図る。</li> <li>・令和4年度卒業生の進路状況は就職者の割合が約60%で、大学進学者も19名となっている。令和4年度より再開したインターンシップ等引き続き実施しキャリア教育を充実させる。また年度末に実施した古河市、古河市工業会見学会等、地域との連携の継続と強化も今後の課題。</li> <li>・資格指導について、講習会等の充実を図り、ジュニアマイスター取得者をはじめ生徒の資格取得に努めている。</li> <li>・部活動加入率は減少傾向にあり、職員の勤務形態、働き方改革をふまえ、部活動のあり方について検討することが課題。</li> </ul>	健康や体力を育み学校全体の活性化	<p>⑨特別活動や部活動等を充実させ、生徒の主体性を育む。</p> <p>⑩様々な学校行事における体験的活動等を通して、生徒の協調性、協働性を育成し、学校全体の活性化を図る。</p>		
	社会の変化に対応した生きる力の育成	<p>⑪キャリア教育を推進し、勤労観・職業観の育成を図り、進路希望の実現を目指す。</p> <p>⑫企業体験学習や進学支援を充実させ、生徒の主体的な進路選択を推進する。</p>		
	P T A活動の活性化と地域社会との連携	<p>⑬P T A活動の活性化のため、保護者との連携と行事の工夫改善を推進する。</p> <p>⑭地域イベントへの協力、参加や出前授業などを展開し、本校の特色を生かした、地域社会との連携を推進する。</p>		
	働き方改革の推進	<p>⑮業務の分担の見直しと内容の精選、適正化、効率化により、働き方改革を推進する。</p>		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教務部	基礎学力の向上を図る。	わかりやすい授業展開を心掛け、生徒の基礎基本となる基礎学力向上を目指す。 ①②⑤		
		I C Tを活用した効果的な授業形態を研究し、積極的な授業改善を図る。 ①④		
		基礎力診断テストを効果的に活用する。 ①		
	生徒の学習環境の支援を図る。	各種奨学金について情報提供を行う。 ⑫		
授業時間の確保に努める。	授業時間数を確保するため、出張等における授業振替を徹底する。 ①			
	学校行事等の特別時間割編成において、科目ごとの授業時間数の確保に努める。 ①			
情報管理部	学校全体での ICT の活用	学校業務の効率化を図り、ICT 機器を活用し、ペーパーレスを推奨していく ④⑮		
	備品の管理及びメンテナンス	増加した ICT 機器の管理及びメンテナンス・整備の促進 ⑮		
	著作権と SNS の教育	著作権を守り、情報漏洩や誹謗中傷等をさせない指導教育の徹底。 ⑦		
	教員間の情報共有	教員数人での情報共有ではなく、学校全体での情報共有を図る ⑤⑮		
生徒指導部	自己の規範意識、基本的生活習慣や社会のルールを見直すことができる生徒を育成する。	朝の立哨指導を実施し、身だしなみの徹底を図る。遅刻届を導入し、遅刻者の減少を推進する。また、昼休みの校内巡視および毎月の頭髪服装検査等を全職員共通理解のもとで実施する。問題行動の未然防止や早期発見・早期対応に努める。 ⑥⑦⑧		
		授業や他の関係分掌との連携行事により、道徳的な態度や考え方を育み、社会の一員として自覚のある心身を育成する。 ⑥⑦		
		学期毎のマナーアップ週間で、生徒会によるあいさつ運動、マナーアップキャンペーン参加等を実施し、マナーの向上や地域の貢献に努める。 ⑥⑧		

別紙様式 2 (高)

		毎月の生徒情報交換会で、生徒に関する情報を共有し、保護者との密な連携を取りながら、いじめ問題、問題行動等の未然防止に努める。 ⑦⑧⑬		
		スマートフォンや SNS の安全利用について、生徒、保護者の意識を高めるための講演会や安全教育を推進する。 ⑥⑦		
	交通安全教育の充実とともに、交通マナーの向上、交通事故の未然防止を図る。	交通安全教室を学年毎に実施し、危険察知力を養い交通ルールの遵守と交通事故の減少に努める。 ⑥⑧		
		学期毎に、自転車・バイク点検およびマナーアップ週間等の登下校指導により、交通安全意識の高揚を図る。 ⑥⑧		
職員間の連携を図る。	生徒情報を共有し、複数の教職員で生徒をサポートする。 ⑥⑦			
進路指導部	進路意識の向上を図る。	各学年と連携して進路ガイダンスを実施し、生徒の希望進路実現に役立てる。 ⑨		
		進路実績等を公開して保護者や生徒とデータを共有し、進路意識の向上に役立てる。 ⑨		
		意識調査・適性検査を実施し、客観的な自己評価を通して進路選択に役立てる。 ①⑩		
		オープンキャンパス等への積極的な参加により、各自に合った進学を実現させる。 ⑩		
	進路達成の充実を図る。	工場見学及びインターンシップを通してより確かな職業観・勤労観を育成する。 ⑨⑩		
		必要に応じてスピード感のある情報提供に努める。閲覧室を有効に活用する。 ⑨⑩⑬		
		生徒への面接指導の充実のために、業者を利用して職員の研修を計画する。 ⑨⑬		
		提出書類作成における留意点の周知徹底及び I T 利用による利便性の向上に努める。 ⑬		
	生徒による希望進学先・希望就職先についての事前研究を徹底させる。 ⑩			
特別活動部	生徒会活動・学校行事等の活性化を図る。	アフターコロナにおいて生徒会役員が中心となり、各クラス・各専門委員会と連携をとりながら、より良い学校生活をおくれるように工夫・改善をし、学校行事等を実施する。 ⑦⑧⑬		
	部活動の活性化を図る。	積極的に部活動紹介を行い、各部活動の取り組み等の強化を図り、企業のニーズに答えられるように指導をし、部活動加入率の向上に努める。 ⑦⑧⑬		
	各生徒会専門委員会の活動の向上を図る。	各専門委員会の年間活動を検討し、生徒会とも連携をとりながら活動を充実するように努める。 ⑦⑧⑫		
	キャリア・パスポートを用い、体験学習・ボランティア活動等の推進を図る。	総工版キャリア・パスポート用い、体験学習やボランティア活動等に対し、生徒の意識の向上や活動が充実するように努め、生徒自身が自己評価を行い自らの発達を促す。 ⑦⑧⑫		
図書視聴覚部	図書館の利用促進と活性化、環境を図る。	図書館利用の円滑化のため生徒自身が持っているタブレットを活用させながら、図書館在書を提供して利用を図る。読書や学習するのに適した環境を作る。 ③④⑧		
		「図書だより」を刊行して、生徒が読書に興味をもち、読書の習慣と図書館へ生徒が足を運んで利用してもらえるようにする。 ⑥⑨⑩		
	視聴覚室の環境の改善を図る。	視聴覚室利用の円滑化を図る。 ①⑧		
保健厚生部	心身の健康指導に努め、規則正しい生活習慣の向上を図る。	健康診断を通して、生徒の健康管理に努め、生徒の基本的な生活習慣をつくる。 ⑥		
		食事における感染防止マナーなど感染症の予防に努める。 ⑩		

別紙様式 2 (高)

	学習施設環境の向上を図る。	学校敷地内の整備と美化に努めながら、安全で安心して学べる学習環境を確保する。 ⑩		
		エアコン、扇風機、ストーブなどの安全な使用と管理を行う。 ⑩		
	防災教育の充実を図る。	防災避難訓練を通し、生徒の防災意識を高める安全教育を行う。 ⑦		
	教育相談体制の充実	相談体制を整備し、カウンセラーを有効に活用し、生徒の精神的ケアを行う。 ④		
渉外部	PTA 行事の参加率向上を図る。	P T A 総会、支部別 P T A 等の内容検討。参加教員の意識向上を図る。 ⑬		
	PTA 研修会の充実を図る。	各支部の支部長と連絡を密に、具体的な実施内容を決定する。 ⑬		
	学校 Web ページの活用を図る。	保護者への連絡を徹底するための ICT による情報伝達を図る。 ⑬		
第一学年	挨拶、身だしなみ(頭髪、服装)、時間厳守などの基本的な生活習慣を身につけさせる。	学校生活の中でルールや基本的な生活習慣の大切さを学ばせる。 ⑥⑦		
		積極的に資格取得へ取り組む姿勢を促す。 ③④		
		個々に学校生活する中で目標を持たせる。 ⑨		
	基礎学力の向上を目標とし個々の生徒達の学力、やる気を引き出して生徒の学力底上げを充実させる。	進路指導を充実させ、就職、進学に対する意識づけをする。 ⑨⑩		
		今日の学校での授業に対する復習することの大切さを教える。 ①		
	専門教科に関する基礎学力の底上げ ①③④			
第二学年	基本的な生活習慣を確立し、社会人としてのマナーを守れる生徒の育成	集団生活の中での基本的な生活習慣の大切さを理解させ人との関わり方を学ばせる。 ①, ④		
		挨拶、身だしなみ、時間厳守の大切さを集団生活のなかで理解させる ④, ⑥		
	基礎学力の向上と資格取得の強化	専門教科に対する基礎学力の向上と苦手意識ある教科の取り組み方を充実させる ①, ③		
		各科の生徒が資格取得に積極的に取り組めるように補講、講習会などで含めて教員側で充実させる。 ③		
各個人の進路に対して意識させ、充実した学校生活を送らせる	生徒が自分の進路に迷わないように、速くから自分の進路について取り組めるように、進路ガイダンスをお開き理解させる。 ⑩, ⑬			
第三学年	進路指導の充実を図る。	生徒一人ひとりの進路実現のために段階的かつ適切な指導を行う。 ⑨⑩		
		各種適性検査を有効活用し、計画的な面接指導を行う。 ⑨⑩		
	基礎学力の向上に努める。	進路実現のために自ら学習に取り組む姿勢を育てる。 ②③		
		ホームルームの活用、各教科との連携を通して、卒業後に必要な基礎学力の向上を図る。 ①		
	人間性の育成を図る。	規範意識の高揚を図り、社会人となる自覚と責任を持たせるための指導を行う。 ④⑥		
学校行事や校外活動への積極的参加を促す。 ⑦⑧⑫				
機械科	基礎・基本の指導の徹底を行い特に技術力の向上を目指す。	「実習」を通して、基礎・基本をしっかり身につけさせる。また、ものづくりの面白さを体験させ、企業が必要とする工業についての確かな技術を有する人材を育成する。 ①③⑩		
	勤労観・職業観の育成を図る。	企業の求める人材を育成するため、インターンシップに参加させる。 ⑨⑩		

別紙様式 2 (高)

機械科		「課題研究」を通して、学習への成就感・達成感を体得させる。また、発表会を行いプレゼンテーション能力の向上を図る。 ②③④		
	資格取得指導の充実を図る。	指導法を工夫して合格率向上を図る。 ①②③⑬		
		資格取得を継続的にを行い、生徒の進路実現に向けた支援を行う。 ③⑪⑭		
	地域との連携を強化する。	地域イベントに積極的に参加し、本校をPRするとともに参加生徒の積極性や社会性を育成する。 ⑩⑫⑭		
出前授業を再開し、地域との連携を図る。 ⑨⑫				
電子機械科	基礎・基本の徹底と個別指導による学力の向上を目指す	きめ細かな指導を行い、基礎的な理論の定着を図る。 ①		
		知識の理解度や計算能力の達成度を把握し、個に応じた授業展開に努める。 ①②		
		座学と実習を連携させることで、理論と実際の事象の関連をわかりやすく説明する。 ①②		
	資格取得指導の一層の充実を図る。	学科に関連する資格の情報を提供し、適性に応じた資格取得に対する意欲の高揚を図る。③		
		個に応じた指導を行い、資格取得に向けた指導の充実を図る。 ②③		
安全の確保や事故の防止に努める。	安全教育の実施及び事故防止に向けた安全管理の徹底に努める。 ⑥			
電気科	専門教科の指導向上を図る。	ICTを活用し、効率的に生徒に対して学習指導をする ①④		
		実習や授業を通して、「ものづくり」の基本を学び、適切な教材の作成に努める。 ③⑤		
	生徒の希望進路の達成	実習や授業を通して個人の目的意識や適性を自ら考え、目標を達成するよう支援する ②⑪		
	資格取得指導の充実を図る。	生徒一人一人の進路希望、適性に応じた資格取得に対する意欲の高揚を図る。 ④		
	地域との連携を強化する。	能力に応じた指導を行い、生徒が希望した資格取得に向け合格率の向上を図る。 ④⑪		
		地域の関係機関と連携を図り積極的に「ものづくり」事業へ参加し工業高校をPRする。⑭		
基本的な生活習慣の確立を図る。	実習などの少人数授業を活用し、生徒との関わりを通して、実社会において必要な教育の指導充実を図る。 ②⑫			
国語科	読む力をつける。	教科書の本文を音読・黙読させ、内容に目を通させる。 ①		
		文章の内容を理解するための課題を解決させる。 ①②		
	書く力をつける。	他の人が正しく読み取れるような文字を書けるように指導する。 ①②		
		漢字や語彙を増やして、適切な文章が書けるように、学習活動を促す。 ①②③		
	聞く力・話す力をつける。	聞き取った内容を正しく理解し、必要な情報を取得する訓練を行う。 ③		
		伝達したい事柄を正しく相手に伝えられるように適切な言葉を選び、相手に応じて話し方を工夫できるような知識を育成する。 ①②		

別紙様式 2 (高)

地歴・公民科	基本的な事項・事柄を精選した授業を展開し、社会に関する基礎的な知識を身につけさせる。	具体的事例や時事問題を取り上げるなど、生徒が理解しやすい授業の展開・工夫に努める。 ①②		
		生徒が主体的に学習へ取り組めるような魅力的な教材の開発を積極的に行う。 ①②		
		生徒が学びを実感できるよう、学習内容の振り返りを積極的に行う。 ①②		
	社会的事象に対する関心を高める。	効果的に ICT を活用した学習を行う。 ①②		
		視聴覚教材の積極的な活用を図る。 ①②		
数学科	基礎計算力の向上を図る	計算過程の復習を繰り返し、基礎計算の練習の機会を確保する。 ①		
		課外授業や補習授業、学び直しの機会を通して、個別指導の充実を図る。 ①②		
	数学的思考力を育む	プリントや ICT 機器を活用した問題演習を実施して、生徒が自ら課題解決に取り組める環境を充実させる。 ②④⑤		
		工業科と関連する分野を紹介して、数学を実践的に利用する思考力を育む。 ③		
理科	理科への興味関心を高める	身近な話題や工業科目との関連を意識した題材を取り上げ、理科への興味・関心を高める。 ①		
	学習に向かう姿勢を育成し、基礎的学力、基本的な知識の確実な定着を図る	授業態度や課題提出の指導を強化し、授業に臨む意識や態度の向上を図る。 ①②		
		「科学と人間生活」においては、科学的な一般常識の修得に重きをおいた授業を展開する。 ①		
	科学的思考力を養成する	義務教育範囲の内容に戻りながら、基本的な法則や公式の確実な修得に重きをおいた授業を展開する。また Googleform を活用し生徒の理解度を確認しながら授業をすすめる。 ①		
	生徒の能力に応じた指導を行う	実験・観察や問題演習を通して、科学的に考える力や知識を活用する力を養わせる。 ①		
		成績不振の生徒には補習を定期的に行い学力の向上を図る。 ②		
		工業科と連携し、工業系資格の合格者数の増加を目指す。 ③		
保健体育科	服装指導の徹底を図る。	授業開始時、服装の乱れを指摘しチェックを行い、規範意識の高揚を図る。指定の体操服を着てこない生徒には、毅然とした態度で接して徹底を図る。 ⑥		
	運動技能と体力の向上を図る。	自己の能力に応じた運動の課題に対し、適切な指導・アドバイスをを行う。 ①②		
		各種競技に関連する運動を積極的に授業に取り入れ、生徒の体力レベルを昨年度以上にする。 ①		
	自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育む。	的確な思考・判断に基づいて適切な意志決定を行い行動選択ができるよう、保健の授業を通じてさまざまな知識や情報を伝達し、理解を深めさせる。タブレット端末を用いた授業を展開する。 ①④		
芸術科 (書道)	書写能力の向上を図り、基礎的な技術を身に付ける。	添削指導等の個々に応じた指導を積極的に行い、意欲的に取り組む姿勢を培うとともに、範書により基礎技術の習得に努める。 ①⑤		
		書の伝統と文化についての理解を深め、「心に響くことば」を題材に、身に付けた技術を自身の表現の構想と工夫に生かす。 ①④		
英語科	基礎学力の向上を図る。	授業への取り組みに対する意識の向上に努め、基礎・基本を重視した指導に努める。 ①②		
		基礎的・基本的な事項を丁寧に説明しわかる授業を行い、確かな学力を身に付けさせる。 ①		
	授業内容の定着を図る。	プリント学習を通して問題演習を行い、学習達成状況や取り組みを確認する。 ①		
		ALT との連携、ICT の活用を通して、英語への興味・関心を高める。 ①④		
	英語活用能力を養う。	生徒が四技能を活用する場面を設定し、総合的な英語運用能力を養う。 ①②		
学習を通して英語に対する興味を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。 ①②				

別紙様式 2 (高)

家庭科	家族・家庭に関する知識と技能の習得を図るとともに、持続可能な社会の担い手としての倫理観と接遇意識を育む。	基礎的・基本的知識の定着と根拠となる情報を取り入れ、説明する力を養う。①			
		実習において、経験から基礎的・基本的技術の定着・向上を図る。また、学校生活から接遇について一緒に考え、倫理観を育てよう努める。加速度的に変化する社会において、多角的な視点から多様な視点を見出し、自分事として考える持続可能な社会の担い手となる人材の育成を図る。①②			
	自己管理能力の向上を図る。	食育の観点から、生徒が主体的に望ましい食事バランスとは何かを考えられるよう努める。①③			
	わかりやすい授業の工夫に努める。	学習課題を明確にし、主体的・対話的な学習の手法を取り入れ、生徒が主体的に学習できるよう努める。② クラスルームやタブレット教材を活用し、生徒が主体的に学習できる授業改善に努める。②④			

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない